

令和3年度 学校評価書

学校名： 静岡市立高等学校

I 経営の重点に関わること

1 学校教育目標：「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。		自己評価	学校関係者評価委員会から
2 重点目標 生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。	(1)授業、部活動、家庭学習時間の確保	①部活動において、各生徒が目標に向かって自己有用感を高める活動ができている。【生徒課】	A
		【学校説明】各部活動が積極的に取り組み、部活動を通して自己有用感を高める貴重な時間となっている。全国的に感染症が拡大し、大会やコンクール、練習試合等の制限がある中、与えられた環境で努力する姿が見られた。	
		②「帰宅時間調査」を年2回実施し、午後7時半までに学校敷地外に出る生徒の割合が前年比増となることを目指す。【教務課】	A
	(2)地域や保護者に関わった学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進	【学校説明】6月の調査では、午後7時半までに学校敷地外へ出た生徒の割合は1年生99.5%(昨年度90.6%)、2年生95.0%(昨年度88.8%)、3年生99.4%(91.1%)であった。11月の調査では1年生91.9%(昨年度81.5%)、2年生92.9%(87.7%)であった。いずれの学年も目標を達成することができた。	
		③授業評価アンケートにおいて「主体性・視野の広さ・自己有用感」が身についたと感じる生徒が、昨年度に比べて増加する。【研修課】	A
		【学校説明】「身についた」と回答した生徒の平均値を昨年度と比較すると、主体性は0.13ポイント、視野の広さは0.13ポイント、自己有用感は0.16ポイント増加した。(4点満点)	
	(3)教職員のワークライフバランス(仕事と生活の調和)に配慮した校内体制の整備を推進する。	①PTA研修会の参加率を5%程度増加させる。PTAが関係する行事のホームページへの記事掲載を3回以上行う。【総務課】	A
		【学校説明】PTA校内研修会(講演会)の参加者は64名で、昨年度の25名より大幅に増加した。ホームページへの掲載も予定通り行われた。その他特筆すべきは、初の試みとなるPTA役員が編集・作成した体育大会の動画配信であった。	
		②広報関連の発行物を適切なタイミングで作成する。本校Webページのアクセス件数を、毎月の平均が最低2,000(昨年度最低は6月の1,784)以上となるよう、内容が充実したサイトにする。【情報課】	A
	(3)教職員のワークライフバランス(仕事と生活の調和)に配慮した校内体制の整備を推進する。	【学校説明】学校案内や授業公開に関するリーフレットを適切なタイミングで作成することができた。Webページのアクセス数も、目標値を達成することができた。最も多い月で1日平均3,089アクセス(5月)、最も少ない月で2,128アクセス(7月)であった。	
①昨年度と比較して、勤務時間が減少した、又は適正であるとする教員が50%以上。【管理職】		B	
	【学校説明】出勤タイムカードで客観的に勤務時間を把握し、それぞれの教員が、年休や振替等を活用しながら、個々の業務に合わせて時間外勤務を削減するよう努めたが、全体として減少させることはできなかった。		
			様々な場面で生徒一人ひとりに達成感や成就感をもたせることで、自分への理解を深めさせたい。
			帰宅時間について改善が見られる。部活動との対応が望ましい。時間を守る、目標に向け努力するなど、決定や選択を実際の活動に換える力を伸ばすことで、自律性を育成したい。
			「主体性・視野の広さ・自己有用感」の育成は、困難な課題の解決に不可欠な能力である。
			PTAの方の中には極めて高い専門性を有する方もいる。こうした試みが続けたい。学校・家庭・地域の連携による充実した教育環境を維持する上で、生徒の頑張りを広報することは重要である。
			充実したWebページによる発信で、生徒たちの頑張りがよくわかり、学校の丁寧な指導や対応が伝わってくる。
			勤務時間の減少については、徐々に達成できるよう仕事の見直しも必要。休みを計画的にとり、自己の充実や家庭のための時間を確保することも大切な仕事である。

II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から				
1 教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成 【市共通項目1】	①普通科特進、普通科一般、科学探究科、すべてのクラス対象に朝課外を毎日行う。年間4回の進路検討会を企画・実施する。【進路課】	A	関係職員が生徒の状況を共有し、指導のベクトルを揃えることが大切である。				
		【学校説明】すべてのクラスを対象に、前期・後期の2期に分け、朝の課外授業を行うことができた。また1月までに、①新旧担任情報交換会(4月)、②正副担任情報交換会(9月)、③私立大学出願検討会(12月)を行い、最新の入試動向を知るとともに、現3年生の進路希望や学力の様子を多くの教員で共有することができた。この後、1月末に国公立大学出願検討会を行う予定である。						
		②学習習慣の定着や学力向上に関する学年の取組 ・学習時間が平日2時間以上、休日4時間以上となるようにする。また、課外授業へ積極的に参加する。【1年部】 ・スタディレコードの継続的な実施及び集計結果の提示をする。家庭学習時間が平日は平均3時間以上、休日は5時間以上となるようにする。学期末成績での優良者数が45名以上となるようにする。【2年部】 ・受験生としての学習サイクルの早期確立を実現する(特に部活動引退後)。スタディーレコードを継続的にを行い、正副担任による各学期1回以上の面談を実施する。【3年部】	A		生徒の変化に応じて、随時個別相談を活用することで集団学習とは違った気づきを直接伝えることができる。学習時間について、生徒自身で把握・管理できることが重要。記録方法については検討すべき課題はあるが、継続的に取り組みたい。夢や希望、目的や目標を持たせ、それを実現するための行動を変える力を伸ばすことで、困難に直面しても、あきらめることなく努力を続ける力の育成につながる。			
		【学校説明】日々の学習の記録を今年度よりClassiに入力し、集計を行った。学習時間に関しては、概ね満足のできるものであった。(1年部)						
		【学校説明】各クラスで正副担任が協力して実施することができた。目標とする学習時間には届かないことが多く、長期休業中もじっくり学習に取り組むことができない生徒がいたが、コメントや直接の指導で、緩み過ぎない状態にはできた。成績優良者は、目標の数の前後まで到達した。(2年部)						
		【学校説明】入学時より学習習慣の形成・定着に努め、継続的なスタディーレコードの記録を通して、自らの生活を客観的に見つめることができた。2年次当初はコロナによる休校期間もあったために、ステップアップするチャンスを逸したが、3年生の部活動引退後はその遅れを取り戻すべく受験生として邁進することができた。その際、正副担任による年間を通じての面談が彼らの意識喚起につながったことに感謝したい。(3年部)						
		③大学入学共通テスト(英語)における得点率の向上と、生徒・保護者・教員間の学習履歴の情報共有を実現する。【教務課】	A			生徒が自己の状況を客観的に捉え、関係者とともにその情報が共有されていることが進路実現にとって重要である。		
		【学校説明】定期テストのテスト個票配付や保護者からの出欠連絡にClassiを活用し、学習履歴が共有できるようにした。生徒・保護者・教員ともにClassiの活用頻度が高くなり、コミュニケーションツールとしても機能するようになった。						
		④新着情報や生徒による図書委員会の活動を通じて図書館利用を呼びかけ、利用者を増やす。【図書課】	A				各書物で何を学ぶのかを示すことで、読み方が変わる。視野を広げ、自分にはないものの見方や考え方に触れることは思考力を伸ばす上で不可欠であり、一層の充実を望む。	
		【学校説明】図書委員会による図書館ニュースは、紙面のレイアウトを見直し、より見やすく、充実した内容になるよう心がけた。貸し出し数は昨年並みであるが、昼休みなどに自分の居場所の1つとして利用する生徒の姿も見られた。						
(2)道徳教育の充実 【市共通項目2】	①6Csのcollaborationについて、全体の70%がレベル3またはレベル4に到達する。【研修課】	A	十分な達成の状況であった。					
【学校説明】レベル3が22.9%、レベル4が74.2%で、合計97.1%の生徒がレベル3・4に到達した。								
(3)特別活動の充実 【市共通項目3】	①生徒が目標に向かって自己有用感を高める活動ができている。【生徒課】	A		自己有用感をもつことで、生徒は自分自身を社会の中に位置づけていくことができる。				
【学校説明】本年度、文化祭や球技大会等の学校行事は、制限がありながら内容を工夫し実施できた。限られた行事や毎日の生活の中で、自己有用感を高める活動ができている。								
2 生徒指導	(1)一人一人を大切に 【市共通項目4】	①いじめをゼロにする。【生徒課】			B			いじめ問題は、いつの時代にもあること。もっと真剣に取り組んでほしい。
		【学校説明】昨年から継続している案件もあるが、いじめとして認定された問題もあった。人間関係を築く力を育て、安心して登校できる環境作りが必要である。						
		②主に校内における生徒の人間関係のトラブル、悩みが早い段階で教員へ相談される。【教育相談室】			B	学校は社会の中で最も安全・安心な場であるべきであり、未然防止を含め職員・保護者・関係機関等が連携したきめ細やかな対応をお願いしたい。		
		【学校説明】相談室だけでなく、担任や教科担当、保健室、部活動顧問などへ、多くの生徒が自身の困りごとを比較的早期に相談し、集団における人間関係の維持に努めた様子うかがえた。教職員全体で、生徒に対する教育相談的な関わり的重要性を認識し、あらゆる場面で生徒を理解するための努力をした一定の成果であると思う。						
3 進路指導	(1)進路指導の充実	①年度当初に5教科の初期指導を実施する。出張授業や学部学科説明会では、国公立大学15大学以上にオファーを出して実施する。【進路課】			A		情報が多ければ進路の選択も広がる。1年生からの参加もあり、良いことと思う。将来を見据えた目標を持たせ、生徒が持っている様々な力を湧き出させ、伸ばしてほしい。	
		【学校説明】初期指導については昨年度と同様、5教科で実施することができた。また学部学科説明会はこれまで2年生のみを対象に行ってきたが、今年度から1年生も合同で実施し、多くの生徒の進路意識の向上につながることができた。						

3 進路指導		②各社主催の研究会に、3年部職員は年間2回以上参加し、担任会などで内容の報告をする。進路室だよりを各学年、年間5回以上発行する。【進路課】 【学校説明】春・秋の各社入試分析会に参加、この後1月に行われる出願指導検討会に、3年部職員が参加する予定である。また進路室だよりを各学年で発行するとともに、学校教育支援サービスであるClassiを通じて保護者に対し、様々な情報提供を行うことができた。	A	A	検討会で得た情報を保護者に水平展開していることは良い。
4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築【市共通項目5】	①無事故・無違反を達成する。【生徒課】 【学校説明】これまで大きな事故がなく登校できているが、小さな事故や自転車違反は報告されている。継続した指導が必要である。 ②生徒の安全を最優先に考え、施設・設備等の定期的点検及び不具合箇所の早期対応を図り、生徒が安心して学校生活を送るための環境整備を行う。【事務室】 【学校説明】各施設・設備の点検等を計画通り実施するとともに、効率的な予算執行により不具合箇所の修繕に努めた。また本年度もコロナ対策として国の補助金等を活用し、衛生環境及びICT環境の向上を図った。	B A	B A	7件の自転車事故が発生しているが、特に入学時に指導をお願いしたい。社会の一員として自他の命を守る意識を育てたい。 想像力豊かに危険回避措置をお願いしたい。
5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実【市共通項目6】	①生活習慣の確立に関する各学年部の取り組み ・正副担任面談の各学期最低1回の実施。年間の皆勤生徒が60%【1年部】 ・正副担任による個別面談年間3回以上。年間皆勤生徒132名以上（昨年度132名）【2年部】 ・日々の挨拶の徹底。年間会見生徒110名以上。【3年部】 【学校説明】副担任の協力もあり、面談や進路相談等は目標を達成できた。皆勤生徒数は、目標に届かなかった。コロナ禍対応もあり、安易に欠席や遅刻をする生徒が出てしまった。また学習や人間関係で悩む生徒もあり、今後心身の遅れさが求められる結果として受け止めている。（1年部）個別面談は、学習面・進路面を中心として、実施することができた。皆勤生徒数は、目標に届かなかった。2年生の中だるみがあり、安易に欠席や遅刻をする生徒が出てしまった。また学習や人間関係で悩む生徒も多く、今後心身の遅れさが求められる結果として受け止めている。（2年部）日々の挨拶の励行は徹底できたと思う。各部活動指導下での習慣が定着し、その他の生徒にも好影響を与えていると感じた。今後も部活動の活発化が学校全体に良い影響を及ぼすと思う。12月末の年間皆勤生徒は113名であった。（3年部）	A	A	安易な欠席・遅刻、また中だるみ等、コロナ禍を理由にしているとのこと。自分で勉強したくなるようにさせることが大事。生活習慣の確立は、大きな展望をもって活動したり、夢の実現に向けて計画し、実行したりする力の基盤となる。自律性の育成のためにも、様々な機会をとらえて、意識を高めたい。
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進【市共通項目7】	①様々な生徒情報を扱いに注意しつつ共有し、生徒への支援に活用する。情報連絡会や事例検討会を必要に応じて迅速に実施し、内容を記録して関係者に回覧し共有する。【保健環境課】 【学校説明】コロナに関わる欠席（濃厚接触者、ワクチン接種および副反応等）が非常に多い中、生徒の出欠の状況や心身の変化について、継続的かつ深く把握し、情報共有を適切に行うことができた。教育相談・保健室・SC・学年部・生徒課等が連動し、情報を活用して個々の生徒の指導・支援の深化が図れた。教育支援の記録や現状は、関係者に回覧し共有できた。教育相談室主導の情報連絡やケース会議も開くことができた。	A	A	課題を抱える生徒のために、職員・保護者・関係機関等が連携したきめ細やかな対応をお願いしたい。
7 組織運営	(1)組織・運営の改善【市共通項目8】	①組織的・協働的な教育活動に取り組む教員が全体の80%以上。【管理職】 【学校説明】ほぼ全ての教員が、SSH事業をはじめとする、組織的・協働的な教育活動に前向きに取り組むことができた。また、次年度から始まる観点別評価に向けて、全ての教科において、今年度を試行年度として捉えた授業やテスト等の教育活動に取り組んだ。	A	A	教育の国際化を踏まえ、意欲の向上とより深い学びのために、充実した研究・研修をお願いしたい。
8 研修	(1)研修体制の充実【市共通項目9】	①検討を経て新教育課程案に修正を加え、全職員で共有する。【教務課】 【学校説明】教育課程検討委員会を開催し、各教科の要望を調整した上で新教育課程案を編成し、11月末に「令和4年度教育課程変更届」を静岡市教育委員会へ提出した。職員会議の時間を利用して、教育課程に関する協議と周知をこまめに行った。 ②年度末に学校経営構想の到達度に関するアンケートを実施し、当該項目（8-2）において70%以上の教職員から「達成した」の回答を得られるようにする。【研修課】 【学校説明】学習評価の研修を4回、授業力向上研修を3回、コンプライアンス研修を3回、小論文研修を1回、SSH関連の研修を3回行い、職員の意識が統一できるよう努めた。	A A	A A	言語や記号、知識や情報、様々な技術を活用する力の育成が求められている中、より深い学びで生徒一人ひとりの意欲と能力を向上させるために、充実した研修をお願いしたい。 おおむね達成された状況である。
9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進【市共通項目10】	①期限を決めてタスクを管理し、各グループで実行の度合いを測定する。【研修課】 【学校説明】タスクを管理することはできたが、度合いを確認しながら実行するにはいたらなかった。 ②地域防災訓練への参加者数を、5%程度増加させる。【総務課】 【学校説明】今年度は昨年度よりも地域防災訓練を行う町内が増えたが、コロナウィルス感染防止のために児童・生徒の参加不可で訓練を行うところも多かった。生徒の参加者は30名程度で、昨年度より微増した。	B B	B B	今後の努力が望まれる。 高校生は防災上大きな力となる。訓練には積極的に参加させてほしい。教職員のもつ集団をまとめる能力や高校生の存在は、災害発生時の地域にとって大変重要である。
10 施設設備	(1)リサイクルや省エネの推進	①古紙リサイクルの更なる推進を図るとともに、可燃・不燃ごみの分別の周知、徹底をする。省エネについては、普通教室照明の計画的なLED化を進めていく。【事務室】 【学校説明】「ごみの分別」については、定期的呼びかけ、周知を行いリサイクルへの意識啓発にも努めた。LED化については、コロナ対応のための環境整備に多く予算を取られたため、スポットでの交換のみとなったが、来年度以降も進めていく予定である。	A	A	学校の環境負荷を減らす努力は、持続可能な社会の作り手となる生徒にとっても良い教育である。SDGsへの取組として環境を大切にすることが挙げられる。リサイクル・省エネについて指導をお願いしたい。
	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	①SSH課題研究報告会、SSH研究成果発表会、科学部によるサイエンスショー等の実施。評価結果を分析し、生徒の変容を全教員間で共有する。【科学探究科】 【学校説明】コロナ禍にあっても報告会や発表会を実施することができた。1年間の取組や発表に向けた準備を通して、生徒が自身を振り返る機会を設けることが出来たのは成果と言える。科学部によるサイエンスショーは、中止になったものも含めて生徒はよく準備し、自身が果たしている役割について理解を深めていた。 ②課題研究校内発表会において、研究内容に関する評価の平均値を3.0以上にする。科学系コンクールでの受賞を2点以上とし、科学の甲子園で地区予選を突破する。【科学探究科】 【学校説明】「課題研究の研究内容は、年々その充実度が増している」とSSH運営指導委員から評価され、本年度は、日本学生科学賞での入選（2等）、高校化学グランドコンテストでの大阪市長賞受賞、台湾での国際科学コンテストでの入選（3等）などの受賞にも恵まれた。残念ながら、科学の甲子園での地区予選を突破は叶わなかった。 ③SSH教員研修の実施。【科学探究科】 【学校説明】年度末に2回実施する。2月は探究活動における指導のあり方を、3月は評価方法を話題にするが、事例を紹介しつつ、市高におけるSSHのコンセプトやSSHを通して何を育成したいのか、これらを全教員間で共有、確認することに重点を置く予定である。 ④「プログラムを通して気づきが得られた」と回答する教員を70%以上にする。少人数授業に対する生徒満足度を85%以上にする。【科学探究科】 【学校説明】「SSHでの経験は、ご自身の授業に『探究』の学びを取り入れることにつながっていますか」の問いに対し、51%（昨年度58%）の教員が「つながっている」と回答し、生徒の変容を感じた教員は80%に上った。課題研究、探究活動での指導を契機に自身の授業を見直す教員も増えている。少人数授業に対する生徒評価は概ね好評であった。集団ごとに異なるアプローチの授業が展開されると満足度が上がる傾向が見られた。	A A A A	A A A A	自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き出す力などを伸ばすことで、より深い学びになる。達成感や成就感を持たせることで、現在の自分についての理解が深まり、将来どうありたいか明確にすることが可能になる。 国際科学コンテストでの入選など成果が上がっている。科学の甲子園では叶わなかったが、更なる精進を望む。
					携わる人が鍵となる。職員・関係機関等でSSHの目的を共有し、指導のベクトルを揃えた丁寧な指導をお願いしたい。 充分な達成の状況であった。

学校から 経営のまとめ(成果と課題)
<p>・前年度に引き続き、新型コロナウイルスに悩まされた一年だった。部活動や学校行事などの当たり前前にできていた教育活動をどのようにしたらできるかを模索し可能な形態で実践でき、本校の掲げる教育目標を概ね達成できた。</p> <p>・文部科学省指定のSSH事業では、科学探究科・普通科ともに、フィールドワークや校外の方々と関わり合いを持ちながら探究的な活動を進めることができた。また、年度末のSSH生徒成果発表は、科学探究科と普通科の生徒が互いに学び合う機会となった。</p> <p>・授業をはじめとした学習活動や探究活動、部活動などあらゆる場面で、生徒の自己有用感を高める教育活動を推進した。</p> <p>・新年度から始まる観点別評価について、全職員で授業改善やテストや成績評価についての研修に取り組み、理解をより一層深めることができた。</p> <p>・学校ホームページの更新や土曜公開授業日の中学生や保護者への学校説明をとおして、充実した広報活動ができた。土曜公開授業日に行われる学校説明会は、コロナ禍により実施できない回があったために、オンライン配信で学校説明会を行い、多くの中学生及び保護者に関覧していただくことができ、一定の成果が得られた。</p> <p>・次年度もコロナ禍が継続すると見込まれるため、今年度の教育活動を整理・分析し、生徒にとってより魅力ある市高を作ることができるよう全職員で取り組んでいきたい。</p>

学校関係者評価委員会まとめ
<p>中間層を含むいわゆる「普通」の生徒が、高校で学ぶ意義を自覚して、将来の力にすることが大切だと常々感じている。探究はそのための重要なキーワードである。全校体制のSSHはチャンスである。難度は高いと思われるが、今後も努力を期待する。</p> <p>学校・家庭・地域が三位一体となり、「魅力ある学校づくり」の取組を、発展・継続させてほしい。</p>